

平成18年度事業報告書

社団法人瀬戸内海環境保全協会

I 一般事項

1. 会議等の開催

(1) 通常総会（平成18年5月24日 ラッセホール）

① 受賞者表彰（瀬戸内海環境保全月間ポスター公募最優秀賞等）

最優秀賞（環境大臣賞）

大野 加奈子 愛知県 自営業

優秀賞（瀬戸内海環境保全協会会長賞）

子供部門 岩下 加奈 岡山県 乙島保育園年中

一般部門 小島 沙津紀 愛知県 愛知工業大学名電高等学校2年生

② 総会議事

- ・平成17年度事業報告及び収支決算
- ・平成18年度会費
- ・平成18年度事業計画及び収支予算
- ・国に対する要望
- ・役員補欠選任

③ 特別講演会

講演：大阪湾での環境再生の動向

講師：広島工業大学大学院環境学研究科 教授 上嶋 英機

(2) 理事会

① 第80回理事会（平成18年5月19日 ラッセホール）

- ・職員就業規則の一部改正
- ・専門委員会委員の委嘱
- ・通常総会付議事項

② 第81回理事会（平成19年3月22日 ラッセホール）

- ・事務局組織規則の一部改正
- ・職員就業規則の一部改正
- ・職員給与規則の一部改正
- ・平成18年度収支予算の補正
- ・平成18年度事業実施状況
- ・平成19年度事業計画案及び収支予算案

(3) 専門委員会等

① 企画委員会

- ア 第79回企画委員会（平成18年7月12日 国際健康開発センター）
 - ・平成18年度事業について
 - ・協会設立30周年記念事業について
 - ・協会体制の充実について
 - ・協会事業の広報（マスメディアの活用）について
 - ・瀬戸内海再生の取り組みについて
- イ 第80回企画委員会（平成19年2月28日 国際健康開発センター）
 - ・平成18年度事業実施状況について
 - ・平成18年度環境省委託契約の状況について
 - ・平成19年度事業計画（案）について
 - ・平成19年度瀬戸内海環境保全普及活動推進事業の進め方について
- ②調査委員会（平成19年2月7日 広島ガーデンパレス）
 - ・平成18年度底質サンプル評価方法検討調査中間報告
- ③編集委員会
 - ア 第1回編集委員会（平成18年7月27日 兵庫県民会館）
 - ・協会総合誌「瀬戸内海」第48～49号の原稿収集について
 - ・協会総合誌「瀬戸内海」の見直しについて
(瀬戸内海の構成、内容等の見直しについて検討するため設置したリニューアル委員会を平成18年11月7日、平成18年12月19日に開催)
 - イ 第2回編集委員会（平成19年1月24日 兵庫県民会館）
 - ・協会総合誌「瀬戸内海」第50～51号の原稿収集について
 - ・協会総合誌「瀬戸内海」の見直しについて
- ④賛助会員事業部会（平成18年9月19日 兵庫県民会館）
 - ・平成18年度賛助会員に関する事業計画について
事業部会：関西電力(株)、川崎重工業(株)、(株)神戸製鋼所、マツダ(株)、四国電力(株)
総合科学(株)、東和科学(株)、山口県瀬戸内海環境保全協会

(4) 参事・事務局長並びに担当課長会議（平成19年3月15日 メルパルク岡山）

- ・平成18年度事業実施状況について
- ・平成19年度事業計画（案）について
- ・平成19年度瀬戸内海環境保全普及活動推進事業の進め方について
- ・会員相互の情報交換

2. 専門委員の委嘱

企画委員、調査委員、編集委員を委嘱した。

(1) 企画委員（11名）

葉山 幸雄	大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課長
富岡 寛美	兵庫県健康生活部環境管理局水質課長

黒川 一司	広島県環境部環境対策局環境調整室長
大森 利春	香川県環境森林部次長兼環境管理課長
吉川 政治	大分県生活環境部環境保全課長
中野 泰三	大阪市都市環境局技術監兼環境情報担当課長
菅原 通直	神戸市環境局主幹（水環境保全担当課長）
久田 隆義	奈良市企画部参事（環境保全課長事務取扱）
宮本 寿	愛媛県漁業協同組合連合会専務理事
岡崎 進	(社)大阪エフボラントリーネットワーク事務局長
木原 敏博	(財)広島県環境保健協会常務理事

(2)調査委員（11名）

村井 保徳	大阪府環境情報センター所長
山村 博平	兵庫県立健康環境科学研究所センター所長
岩井 敏明	和歌山県環境衛生研究センター所長
小倉 肇	岡山県環境保健センター所長
田口 哲	広島県保健環境センター所長
宮村 恵宣	山口県環境保健研究センター所長
片田 展博	徳島県保健環境センター所長
藤田 淳二	香川県環境保健研究センター所長
井上 博雄	愛媛県立衛生環境研究所所長
吉村 健清	福岡県保健環境研究所所長
堤 平治	大分県衛生環境研究センター所長

(3)編集委員（16名）

秋山 和裕	環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室室長補佐
岩田 健治	東和科学（株）取締役事業経営本部副本部長
英保 次郎	兵庫県立健康環境科学研究所センター水質環境部長兼大気環境部長
大森 利春	香川県環境森林部次長兼環境管理課長
岡本 亮	(財)広島県環境保健協会品質保証管理者
北村 弘行	元（社）瀬戸内海環境保全協会参与
富岡 寛美	兵庫県健康生活部環境管理局水質課長
西田 正憲	奈良県立大学地域創造学部教授
橋詰 博樹	(財)地球環境戦略研究機関APNセンター長
久野 武	関西学院大学総合政策学部教授
藤井 正美	元神戸学院大学薬学部教授
松本 公治	関西電力株式会社環境室環境技術グループマネジャー
眞鍋 武彦	(財)国際エメックスセンター技術アドバイザー
宮川 裕	(株)神戸製鋼所本社環境エネルギー部長

湯浅 一郎 (独) 産業技術総合研究所沿岸海洋研究グループ長
鷺尾 圭司 京都精華大学人文学部教授

3. 事務局職員等 (19. 3. 31 現在)

常務理事	中嶋 國勝
顧問	櫻井 正昭 ((財) 自然公園財団専務理事)
事務局長兼業務課長	佐藤 善己 (兵庫県からの出向)
参事兼総務課長	高木 敏一
主査	中井 純子
主査	清水 孝則 (いであ(株)からの出向)
主任	守安 雅代

II 事業

1. 普及活動及び活動支援事業

(1) 平成18年度(第34回)瀬戸内海環境保全月間事業の展開 (18. 6. 1 ~6. 30)

瀬戸内海関係地域住民並びに関係者に対して、広域的な瀬戸内海環境保全意識の高揚を図るため、会員並びに関係諸団体の協力を得て、広く公募した作品によりポスターを作成、これを掲示するとともに、パンフレットの配布などを行った。

・平成18年度瀬戸内海環境保全月間ポスター公募最優秀 愛知県 大野加奈子さんの作品

(2) 平成19年度(第35回)瀬戸内海環境保全月間ポスターの公募 (期間: 18年7月11日~11月30日)

19年度瀬戸内海環境保全月間に向けて、環境省、瀬戸内海環境保全知事・市長会議と連携してポスターの原画を募集した。

ポスター選定委員会の開催 (平成19年3月8日)

応募数 子供部門: 69

一般部門: 252 総数: 321

(3) 瀬戸内海環境保全普及活動推進事業の実施

① 瀬戸内海環境保全セミナーの実施

環境保全活動を推進するため、環境保全意識の高揚及び人材育成、情報発信等を目的として瀬戸内海環境保全セミナーを開催した。

日時: 平成19年2月5日

場所: 徳島東急イン

テーマ: 森・川・海一流域での連携を進めるー

講演: 森林溪流の水質が海洋環境に与える影響について

ー香川県と徳島県の2カ所の調査研究事例からー

講師 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部助手 田村 隆雄

パネルディスカッション：流域での環境保全活動の活性化に向けて

コーディネーター 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部助手 田村 隆雄
パネリスト NPO法人徳島県森の案内人ネットワーク理事 田中 貴代
NPO法人新町川を守る会理事長 中村 英雄
NPO法人徳島海清会代表理事 池添 恭弘

参加人数：69名

②瀬戸内海環境保全トレーニングプログラムの実施

新たに瀬戸内海の環境保全のための業務に従事することとなった会員団体職員を対象に研修会を開催した。

日時：平成19年1月30日～2月1日

場所：海峡ビューしものせき（山口県下関市）

講義：瀬戸内海の環境保全の歩みと再生方策

講師 広島大学名誉教授 松田 治

瀬戸内海の風景とツーリズム

講師 奈良県立大学教授 西田 正憲

瀬戸内海を取り巻く課題（法律を中心に）

講師 環境省水・大気環境局閉鎖性海域対策室室長補佐 浅見 尚史

瀬戸内海沿岸海域での諸問題

講師 関西学院大学総合政策学部教授 久野 武

里海学ー太く、長く、滑らかな物質循環ー

講師 九州大学応用力学研究所教授 柳 哲雄

現地研修

北九州市エコタウンセンター

班別討議・全体討議

参加人数：23名

(4)平成18年度瀬戸内海の環境保全に関する衛生団体合同研修会の開催

主催：瀬戸内海環境保全地区組織会議／(社)岡山県環境衛生協会／(社)瀬戸内海環境保全協会

日時：平成18年11月27日～28日

場所：ピュアリティまきび（岡山市）

基調講演：瀬戸内海の現状と課題

講師 兵庫県健康生活部環境管理局水質課長 富岡 寛美

体験交流・意見交流：各府縣市連合会の実践活動報告

ワークショップ：瀬戸内海の環境保全の普及啓発の実践方法について

参加人数：延べ184名

(5)賛助会員による瀬戸内海環境保全事業の展開

①平成18年度瀬戸内海環境保全月間行事（平成18年6月1日～30日）への積極的参加

- ・月間ポスター等の提示による普及啓発活動の実施
- ・月間中の環境行事の実施及び取りまとめ
- ②平成19年度瀬戸内海環境保全月間ポスター公募への協力
- ③総合誌「瀬戸内海」の配布と投稿
- ④瀬戸内海環境保全研修会の開催

日時：平成19年2月20日

場所：兵庫県農業共済会館

講演：青潮と貧酸素水塊－内湾と港湾の貧酸素化とその対策－

講師 京都大学大学院農学研究科教授 藤原 建紀

高度経済成長下の中国環境問題－環境問題のデパート 中国の行方－

講師 (財)地球環境戦略研究機関北京事務所長 小柳 秀明

参加人数：104名

(6) 瀬戸内海スナメリ発見情報プロジェクト実践事業の展開

沿岸域住民の瀬戸内海に対する理解や関心を深め、自主的な取り組みを推進するための契機となるよう平成11年度から実施しているスナメリ発見情報プロジェクトを引き続き展開するとともに、公募したスナメリのマスコットイラスト及び愛称「ほのぼのん」を広く活用し、瀬戸内海の環境保全活動を行った。

(7) 瀬戸内海再生に向けた取り組みの展開

瀬戸内海の生物多様性の確保、水産資源の回復、美しい自然とふれあう機会の提供等の豊かで美しい瀬戸内海を取り戻すための施策の推進が総合的、計画的に図られるよう、瀬戸内海環境保全知事・市長会議等と連携して、次の取り組みを進めた。

- ①瀬戸内海再生の啓発用リーフレット、パンフレット等の作成、配布
- ②瀬戸内海の再生に向けた法整備のための署名活動の実施
- ③瀬戸内海再生法整備推進大会（平成19年3月29日 兵庫県公館）の開催

(8) (社) 瀬戸内海環境保全協会設立30周年記念事業の実施

平成18年度が当協会設立30周年の節目の年に当たることから、これを契機に瀬戸内海の環境保全への理解を深めるための記念事業を実施した。

①せとうち風景フォトコンテストの実施

応募期間：平成18年2月27日～10月10日

選定委員会の開催（平成18年10月24日）

応募数：682点

最優秀賞（環境省水・大気環境局長賞）

松田 昇 徳島県三好郡（撮影場所：香川県三豊市詫間町 タイトル：お花畑）

優秀賞（瀬戸内海環境保全協会会長賞）

諏訪 博明 広島県呉市（撮影場所：広島県呉市広湾 タイトル：瀬戸の引潮）

池下 智子 和歌山県有田郡（撮影場所：兵庫県明石海峡 タイトル：海峡の春）

②せとうち風景写真集の作成

せとうち風景フォトコンテストの入選作品（最優秀賞、優秀賞、佳作）等を掲載した写真集を印刷、発行。

③記念講演会の開催

日時：平成18年11月14日

場所：ラッセホール

基調講演：越後妻有をめぐるアートの旅は山間僻地再発見の旅

講師 アートフロントギャラリー主宰 女子美術大学教授 北川 フラム

風景を目利きする－瀬戸内海の魅力再発見－

講師 東京工業大学名誉教授 中村 良夫

パネルディスカッション：瀬戸内海をめぐる・新お遍路のススメ

コーディネーター 奈良県立大学地域創造学部教授 西田 正憲

パネリスト 東京工業大学名誉教授 中村 良夫

地中美術館館長 秋元 雄史

近畿大学理工学部講師 岡田 昌彰

岡山大学環境理工学部助手 井原 縁

参加人数：176名

(9)瀬戸内海における浜辺の自然・文化・歴史教室の開催（福武学術文化振興財団助成事業）

瀬戸内海の海岸で小・中学生とその親を対象に、その海岸の生物分布・特徴を調べると同時に、地域の持つ自然・文化・歴史特性を総合的に学び、瀬戸内海の環境保全の大切さを理解することを目的とした教室を開催した。

①新川・春日川河口干潟（香川県屋島）

日時：平成18年7月17日

内容：香川大学農学部が多田邦尚教授、一見和彦助教授を講師に、干潟の生物を採取し、農学部附属浅海域実験実習施設を利用してその特徴を観察するとともに、九州大学応用力学研究所柳哲雄教授から地元に関係の深い平家物語、源平合戦について学習した。

参加者：27名

②牛窓海岸（岡山県瀬戸内市）

日時：平成18年10月14日

内容：岡山大学理学部附属牛窓臨海実験所白井浩子助教授を講師に、磯の生物を採取し、臨海実験所の施設を利用してその特徴を観察するとともに、岡山大学文学部倉地克直教授から地元に関係の深い朝鮮通信使について学習した。

参加者：20名

(10)環境保全活動テキストの発行

沿岸域の環境保全活動に資するため、瀬戸内海研究会が環境事業団地球環境基金（現：（独）環境再生保全機構地球環境基金）の助成を受けて編集・作成した環境保全活動テキスト「瀬戸内海とわたしたち一森〜川〜海からひと・くらし・いきものを考えよう」を協会で印刷、発行した。

(11)各種環境保全事業への参加・協力

①環境イベントへの参加・協力

第五管区海上保安本部が中心となって実施している大阪湾クリーン作戦（6月1日～30日）に協力し、ポスターの配布、ごみの回収等を行った。

また、「ひょうごエコフスティバル」で瀬戸内海環境保全パネルを展示するとともに、海岸に漂着したごみ（ガラス片、瓦片等）での工作教室を実施した。

②会員等主催事業の支援

瀬戸内海の環境保全の普及・広報活動に資するため、パネルを貸し出すなど、会員等が主催する各種環境保全事業の支援を行った。

③環境NGO／NPOとの連携・支援

大阪湾見守りネットが実施した「ほっといたらあかんやん！大阪湾フォーラム」に協力するなど、瀬戸内海の環境保全等に努める環境NGO／NPOとの連携・支援を行った。

2. 指導・助成

各種環境保全活動事業に対する助成

中核市、漁業団体、環境衛生団体が実施する各種環境保全活動事業に対しその活動費用の一部を助成した。

3. 情報収集・発信事業

(1)瀬戸内海研究・環境等情報ネットワークシステム（「せとうちネット」）の管理・運営

瀬戸内海に関する水質等環境情報や社会経済、文化・歴史等情報、各種調査研究成果等多様な情報の提供を目的として平成10年度に構築した「せとうちネット」の的確な管理・運営に努めるとともに、環境省の委託等により情報収集を行ない、データの追加・更新を行った。

(2)総合誌「瀬戸内海」の発行及び配布

瀬戸内海の自然・社会・人文科学の総合誌「瀬戸内海」を次のとおり発行配布。

- ・発行回数：年4回
- ・平成18年 6月 第46号
- ・平成18年 9月 第47号
- ・平成19年 1月 第48号
- ・平成19年 3月 第49号

(3)資料集「瀬戸内海の環境保全ー平成18年度版ー」の発行及び配布

瀬戸内海に関連する各種資料をとりまとめ、収録した資料集「瀬戸内海の環境保全ー平成18年度版ー」を発行配布。

(4) 協会ホームページの充実

当協会の活動紹介及び環境情報等の発信に努めた。また、瀬戸内海の再生に向けた法整備のためのインターネット署名を開始した。

4. 調査・研究事業

(1) 平成18年度底質サンプル評価方法検討調査（環境省より請負）

瀬戸内海の過去の底質環境の変遷を把握するため、平成17年度に大阪湾、燧灘、広島湾において、各府県の環境関係研究機関で分担・保管されている底泥の表層及びコア試料を用いて、腐食物質、炭素及び窒素の安定同位体比、貝形虫・有孔虫の遺骸の調査、分析（底質サンプルバンク予備調査）を行った。これらの結果について、変化要因及び評価方法を検討し、平成19年度以降の底質サンプルバンク調査の実施方針を取りまとめるための検討を実施した。

検討作業会（ワーキンググループ）：（委員長：塩沢孝之前広島県産業科学技術研究所副所長）

開催日：第1回 平成18年11月13日

第2回 平成19年1月17日

第3回 平成19年3月6日

(2) 海洋ごみ対策の確立に向けた情報支援システムの構築に関する研究（新）

（独立行政法人産業技術総合研究所より受託 平成18年度～）

海岸漂着ごみによる景観の劣化、プラスチックごみの破片化による海洋汚染、生態系への悪影響等、海洋ごみ問題は深刻な状況にあり、早急に取り組むべき環境問題である。このため、環境省の地球環境保全等試験研究費を受けて、漂流・漂着予測モデルの構築、GISによる空間解析によるごみの動態と総量の把握、漂着・浮遊ごみのモニタリング調査、既存資料・情報の収集を行うなど、瀬戸内海での海洋ごみ対策の確立に向けて、（独）産業技術総合研究所、鹿児島大学、いであ（株）との共同研究を開始した。

平成18年度、当協会では、瀬戸内海での海洋ごみ（漂着ごみ、浮遊ごみ、海底ごみ）の現状を把握するため、海洋ごみによる影響・被害の状況、回収活動の状況、回収ごみの処理方法、処理費用の負担等についてアンケート調査を実施した。（アンケート先：漁業協同組合、沿岸市町村、沿岸府県、環境保全団体）また、海岸に漂着するごみの経時変化等を把握するため、大阪湾1地点、播磨灘2地点で指標漂着物のモニタリング調査を実施した。

5. 瀬戸内海研究会議に対する支援・協力

瀬戸内海研究会議の事務局を担うとともに、研究会議が行う事業の運営推進を支援し、協力した。

(1) 瀬戸内海研究会議事務局

瀬戸内海研究会議の事務局として、円滑な事務運営と会員との連絡調整を行うとともに、事業を適切、効率的に遂行した。

(2) 「瀬戸内海研究フォーラムin広島」及びワークショップの開催等に対する支援・協力を行った。

①瀬戸内海研究フォーラムin広島

テーマ：観光資源と浅場環境の再評価とその長期的活用戦略

開催日：平成18年8月31日～9月1日

場 所：宮島観光会館

②瀬戸内海研究会議ワークショップ

テーマ：瀬戸内海を里海に－新たな視点による再生方策－

開催日：平成19年3月14日

場 所：兵庫県民会館

6. 国際的な活動への参加と協力

(財)国際エメックスセンターが主催する第7回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECST7）において、瀬戸内海の環境保全の取組みについて、発表及び広報等を行った。

フランス バス・ノルマンディ地域圏カルバドス県カーン市（平成18年5月9～12日）

7. その他関連事業

(1) 国に対する要望

協会が実施する事業及び調査研究の拡充強化並びに本協会の運営への配慮等について国に要望した。

- 要望事項：1. 瀬戸内海環境保全のための普及活動、環境教育事業及び参加型環境保全活動事業の推進
2. 瀬戸内海の環境データの収集とデータベース機能の充実
3. 瀬戸内海の沿岸域での良好な環境の保全、失われた環境の修復・創造並びに自然再生の推進に関する調査研究
4. 瀬戸内海の汚濁メカニズムの解明と富栄養化防止に関する調査研究
5. 瀬戸内海の自然環境及び水環境保全並びに浮遊・漂着・海底ごみ等に関する調査研究
6. 瀬戸内海の化学物質等による環境影響に関する調査研究
7. 各種開発事業等に係る環境影響評価及び環境管理技術に関する調査研究
8. 瀬戸内海研究会議の調査研究及び教育活動の拡充強化

要望日：平成18年8月4日

要望先：環境省、財務省、国土交通省、水産庁

(2) 瀬戸内海環境保全知事・市長会議との協調

瀬戸内海環境保全知事・市長会議と連携を密にし、協調して事業実施に当たった。

(3) 賛助会員の加入促進

協会の目的に賛同する企業等の賛助会員加入の促進に努めた。